

## レッジョ・エミリアアプローチとは・・・

北イタリアのレッジョ・エミリアという小さな町で生まれた教育哲学。1991年『ニューズウィーク』誌の世界で最も革新的な学校として紹介され、その名が広く知られる。

教育プログラムではないため、時代や国や地域、文化によってアプローチの方法は異なる。人間は社会の一歯車として生きていくのではなく、自分とは違うものの見方、意見を歓迎し楽しむことでより良い社会を作ることができる。そのような環境であれば、子どもたちが自信をもって存在し、安心して“自分”でいることができる。

『100の言葉』の精神を大切に『共に生きる』という心を育てる。

100の言葉  
ロリス・マラグッツィ(田辺敬子訳)

子どもには百とおひある  
子どもには  
百のことば 百の手 百の考え 遊び方や話し方  
百いつでも 百の聞き方 驚き方 愛し方 歌ったり  
理解するのに 百の喜び  
発見するのに百の世界  
発明するのに百の世界  
夢見るのに 百の世界がある  
子どもには百のことばがある  
それからもっともっと

けれど九十九は奪われる  
学校や文化が頭とからだを ばらばらにする

そして子どもに言う  
手を使わずに考えなさい  
頭を使わずにやりなさい  
話さずに聞きなさい  
ふざけずに理解しなさい  
愛したり驚いたり 復活祭とクリスマスだけ

そして子どもに言う  
目の前にある世界を発見しなさい  
そして百のうち 九十九を奪ってしまう

そして子どもに言う  
遊びと仕事  
現実と空想  
科学と想像  
空と大地  
道理と夢は  
一緒にならないものだと  
つまり百なんかかないと言う

子どもは言う  
でも 百はある

## 保育者プロフィール

日本、アメリカ、タイ、インド、カンボジア、オーストラリア、イタリアの幼児施設、児童養護施設、孤児院、ホームレスファミリーのシェルター内学童でボランティアをする中で、様々な環境で生きる子どもたちに出会う。

教育について考えるうちレッジョ・エミリアアプローチに出会う。

2018年 レッジョ・エミリアの園を視察。

そこで出会った子どもたちの存在にゆるぎない自信を感じる。

2019年 再びレッジョ・エミリアへ。市内の園で2か月間研修を受ける。

保護者と保育者という2つの立場からレッジョ・エミリアアプローチを経験。